

『五感で受け取ったアメリカ文化』

明見中学校 勝俣 穂乃花

私は、この姉妹都市派遣事業に参加し、事前に興味を持っていたアメリカの文化についてたくさんのことを学んできました。

コロラドスプリングス市でのホストファミリーへのお土産は、和雑貨や富士山に関するものが富士吉田らしいと考えました。富士山が描かれた扇子・ボールペン。面白いところでは日本刀をモチーフとした、実用的なペーパーナイフ。富士山の季節ごとの写真などを選びました。人生初めての飛行機では緊張の連続。ロッキー山脈上空の悪天候で気流が乱れ、お腹が何度もヒュッとするほどの揺れにヒヤヒヤ。しかし後から考えると地図に載るような場所を越えたことに気づき怖くはありましたが感動してしまいました。

到着しデンバーの空港から出て驚いたことは、建物が少なく、空と大地が見渡す限りずっと続いていたことでした。広大な、という言葉が自然と頭に浮かびました。

コロラドスプリングス市には、パイクスピークという大きな山があります。吉田には富士山があり、その麓で暮らす生活スタイルや標高も似ています。家同士は間隔が広く、ホストファミリーの自宅付近では野うさぎが自由に飛び回り、馬も生活の中に居ます。自然のスケールの大きさに、圧倒されました。

アメリカに到着当日から3日目まではホストファミリーと過ごしました。お母さんは沢山話しかけてくれ笑顔も多く、お父さんは穏やかで優しく、15歳のエイルはノリが良くて、とても明るい家庭で安心しました。動物園やショッピング、その場その場でどういった場所なのかを口々に説明してくれました。その交流の中で英語が拙いからこそその難しさもありましたが「何とか伝えよう、理解しよう」と努力できたことが一番の収穫でした。4日目は派遣団のみの行動日でした。歴史を感じる場所に行きましたが、中でもガーデンオブザゴッズが一番印象に残っています。日本では見たことのない大きな岩が絶妙なバランスでそびえ立ち、点在していて。これを作り出した自然の力に胸がドキドキし、ここが「神々の庭」と言われる意味がストーンと心に入ってきました。

他にも生活する中で、日本のアニメや漫画食べ物や道具などを目にする機会が何度もありました。反対に日本でも馴染みのある飲み物もありましたが、少し味が違ったり、アニメの英訳が日本の解釈とはズレがあると感じたこともありました。しかし、様々な文化をお互いに理解しあおうとする国同士の関係が素敵だと感じました。

私は今回のコロラド派遣に参加し、親元を離れて生活することで得たものの大きさを忘れません。6日間自分自身で貴重品や安全を管理することで自立心・責任感を持つ大切さを自覚することができました。貴重な体験を支えてくださり、ありがとうございました。